

## 日本天文学会昭和 42 年度春季年会記事

昭和 42 年度春季年会は 5 月 10, 11, 12 日東京大学理学部 2 号館講堂で行われた。講演数 99, 出席者約 180 名, 11 日には通常総会が行われた。

発表された講演数, 座長は次の通りである。

	講演数	座長
第 1 日 (10 日) 午前	13	上田, 虎尾
	午後	23
第 2 日 (11 日) 午前	12	藤田, 末元
	午後	15

〔特別講演: 天文学将来計画について, 古畑正秋他〕

座長 藤田

第 3 日 (12 日) 午前	15	大沢, 一柳
	午後	21

11 日正午より通常総会が開かれた。

議長: 広瀬理事長

総会次第:

1. 開会
2. 昭和 41 年度会務報告
3. 昭和 41 年度会計報告
4. 昭和 42 年度予算案
5. 五藤光学研究所よりの寄付金の件
6. 天体発見賞の贈呈
7. 次期理事長, 副理事長の選出
8. 新理事長挨拶
9. 次期理事の指名
10. 欧文研究報告編集委員の依頼
11. 大塚奨学金選考委員の改選
12. 閉会

以上の議題については原案通り承認された。又五藤光学研究所よりは金 100 万円が本会に寄付された。今回の天体発見賞は関勉氏及び池谷薫氏に夫々贈呈された。

次期役員は次の通り決った。

- (イ) 理事長 ○清水 颯
- (ロ) 副理事長 ○大沢清輝 ○高木重次
- (ハ) 庶務理事 ○青木信仰 ○赤羽賢司
- (ニ) 会計理事 ○積田寿久 ○守山史生
- (ホ) 欧文報告理事 ◎末元善三郎, ○北村正利, 内田豊, 古在由秀, 小平桂一, 山下泰正
- (ヘ) 天文月報理事 ◎竹内端夫, ○田鍋浩義, 石田憲一, 成相恭二, 西村史朗, 平山 淳, 森本雅樹
- (ト) 水沢理事 ○須川 力, 若生康二郎
- (チ) 仙台理事 ○高窪啓弥, 坂下志郎, 須田和男
- (リ) 東京理事 海野和三郎, 大脇直明, 北郷俊郎, 村山定男

(ク) 京都理事 ○柿沼正二, 川口市郎, 中井善寛, 藤本光昭

(ケ) 中国・四国理事 ○三沢邦彦, 石田五郎

(但し○印: 法定理事, ◎印: 編集長)

(カ) 欧文研究報告編集委員

海野和三郎, 奥田豊三, 大沢清輝, 清水 颯, 田中春夫, 林忠四郎, 一柳寿一, 広瀬秀雄, 宮本正太郎

(コ) 大塚奨学金選考委員

大沢清輝, 高木重次, 広瀬秀雄, 藤田良雄, 村山定男  
吉田正太郎

## 昭和 41 年度 (1966~1967) 会務報告

昭和 41 年度は本会創立 59 年度, 社団法人設立後 33 年にあたる。

## 本年度に行った事業

(イ) 出版

(1) 欧文研究報告 (Publications of the Astronomical Society of Japan.)

第 18 卷 第 2 号 74 頁 (昭和 41 年 6 月発行)

第 18 卷 第 3 号 162 頁 (昭和 41 年 9 月発行)

第 18 卷 第 4 号 191 頁 (昭和 42 年 2 月発行)

第 19 卷 第 1 号 —— (昭和 42 年 4 月発行)

註: 41 年度は予定総頁数 380 頁を約 150 頁超過した。

(2) 天文月報

第 59 卷 第 5 号から第 60 卷 第 4 号まで毎月発行

(ロ) 年会

(1) 春季年会

昭和 41 年 5 月 12, 13, 14 日にわたり東京大学理学部 2 号館講堂で行われた。講演数 89, 出席者約 150 名

(2) 秋季年会

昭和 41 年 10 月 20, 21 日にわたり京都府立勤労会館に於いて行われた。講演数 80, 出席者約 170 名

## 総会および評議員会

(イ) 通常総会 昭和 41 年 5 月 13 日正午より東京大学理学部 2 号館講堂において行なわれた。

議長: 広瀬理事長

議題: ①昭和 40 年度会務報告, ②昭和 40 年度会計報告, ③会費値上げに関する件, ④昭和 41 年度予算案, ⑤天体発見賞の贈呈, ⑥次期 (昭和 41~45 年) 評議員選出

(ロ) 評議員会

(1) 昭和 41 年 4 月 25 日 (月) 東京大学理学部天文学教室会議室で開催

議長: 秋山 薫

議題: ①昭和 40 年度会務報告, ②昭和 40 年度会計報告, ③会費値上げに関する件, ④昭和41 年度予算案, ⑤天体発見賞に関する件, ⑥評議員改選に関する件, ⑦その他

(2) 昭和 41 年 5 月 12 日 (土) 学士会館本郷分室

議長: 筒木政岐

議題: ①通常総会上提議題の確認, ②その他

その他の主な会務

(イ)天体発見賞 (池谷 薫氏 昭和 40 年 9 月 18 日発見) 天体発見功労賞 (関 勉氏 昭和 40 年 9 月 18 日発見) (41 年 5 月 13 日)

(ロ) 41 年度本会奨励研究生に木下宙(東大理), 船越康宏

(京大理), 中嶋浩一(東大理), 大木健一郎(京大理), 原 憲之介(東北大理)の各氏が決定し 4 月 1 日にさかのぼって月額 5,000 円を支給した。(41 年 6 月)

(ハ)文部省より昭和 41 年度研究成果刊行補助金として本会欧文研究報告に対して 210,000 円 (40 年度より 3 万円増額) が交付された。(41 年 11 月).

(ニ)武藤勝彦氏の御逝去に対して弔辞及び花環を供えた。(41 年 8 月 20 日)

(ホ)昭和 41 年度大塚奨学金 60,000 円は倉谷寛氏(富山市立天文台)に支給されることになった。(41 年 10 月)

(ヘ)東京天文台一般公開を後援した。(41 年 10 月 29 日)

(ト)会員名簿を作成した。(42 年 2 月)

学術交流関係会務

(イ)年会出席用旅費の補助を行った(約 11 万円)

(ロ)各種研究会に対する補助を行った(約 14 万円)

昭和 41 年度収支決算書

(41. 4. 1~42. 3. 31)

経常部

収 入		支 出	
前期繰越金	18,249	欧文報告調製費	1,467,176
会費	1,903,776	欧文報告複製費	0
天文報告販売	1,457,830	天文月報調製費	1,332,000
天文月報販売	135,032	諸印刷物調製費	586,405
諸印刷物販売	477,910	送料通信費	390,805
欧文報告委託出版	200,000	交通費	95,640
欧文報告刊行補助金	210,000	定會費	138,282
印刷税	191,200	謝金	291,890
預金利子	20,411	人件費	268,500
大塚奨学金利子	73,700	物品費	114,350
雑収入	473,479	大塚奨学金	0
		雑	186,797
		名簿作製費	226,125
		次期繰越金	63,617
合 計	5,161,587	合 計	5,161,587

臨時部

収 入		支 出	
前期繰越金	1,745,680	学術交流費	248,500
賛助会費	940,000	春季年会	68,100
		S A M	60,000
		内訳 { 秋季年会	40,900
		天体物理	70,000
		冬季研究会	9,500
		研究補助費	300,000
		人件費	248,100
		送料通信費	2,250
		交通費	0
		雑費	0
		次期繰越金	1,886,830
合 計	2,685,680	合 計	2,685,680

上記の収支決算に関しては、4 月 8 日、野附誠夫、中野三郎両氏による会計監査を終了してあります。

会員数	本年度	昨年度
名誉会員	6	(6)
通常会員	1510	(1660)
特別会員	256	(260)
賛助会員	54	(57)

昭和 42 年度予算

(42. 4. 1~43. 3. 31)

経常部

収 入		支 出	
前期繰越金	63,617	欧文報告調製費	1,500,000
会費	1,800,000	欧文報告複製費	300,000
天文報告販売	1,300,000	天文月報調製費	1,350,000
天文月報販売	120,000	諸印刷物調製費	500,000
諸印刷物販売	700,000	送料通信費	400,000
欧文報告委託出版	200,000	交通費	130,000
欧文報告刊行補助金	200,000	定會費	150,000
印刷税	200,000	謝金	300,000
預金利子	20,000	人件費	300,000
大塚奨学金利子	73,700	物品費	50,000
雑収入	600,000	大塚奨学金	120,000
		雑	150,000
		次期繰越金	27,317
合 計	5,277,317	合 計	5,277,317

臨時部

収 入		支 出	
前期繰越金	1,886,830	学術交流費	280,000
賛助会費	900,000	研究補助費	420,000
		人件費	280,000
		送料通信費	5,000
		予備費	100,000
		次期繰越金	1,701,830
合 計	2,786,830	合 計	2,786,830